

令和7年度 第3回足柄高等学校学校運営協議会 会議概要

令和8年3月 24 日(火)

足柄高等学校 会議室

○ 校長挨拶

- ・令和8年11月に創立50周年の記念式典を行うため、動画撮影などの取組みを実施している。
- ・インクルーシブ教育実践推進校としての10年間の取組を整理し、次の10年に向けた改善を検討したい。50周年を機に生まれ変わる足柄高校を考えている。
- ・本日の協議では今年度を振り返って意見を伺い、今後の取組みを検討したい。

協議 (1) 令和7年度学校評価報告書(実施結果)について

<各グループより報告>

【教務グループ】

- ・教育課程編成を実施し、類型による同一科目の単位数の差異をなくした。
- ・数学・理科についても2年次以降の選択幅を広げ、希望に合った進路選択ができる編成に改めた。
- ・今後は進学結果の検証を踏まえ、新学習指導要領に向けさらなる改善をしていく。

【情報管理グループ】

- ・1月に電子黒板を全HR教室に導入した。今後は「どう活用するか」が課題である。

【生徒支援グループ】

- ・「かながわこどもサポートドック」を活用し、生徒の諸問題に早期発見・早期対応を行った。多様な生徒に対応する上で重要と考えている。
- ・自転車ヘルメットの着用については、交通安全委員会による啓発活動などを継続している。また、シルバー人材センターによる登下校の見守りも実施している。
- ・保健室利用について、頭痛の訴えが多い。朝食の欠食や睡眠不足が要因と推察されるので、保健だより等を活用した啓発を行っていく。
- ・SC、SSWの利用も非常に多く、効果は大きいと考えている。

【生徒会グループ】

- ・1年を通じて、学校行事を比較的円滑に進めることができた。
- ・体育祭が雨で順延されたり、文化祭は猛暑の中の開催となったりしたが、いずれも大きな事故なく終えられた。生徒の満足度も高かった。
- ・運動部、文化部とも関東大会・全国大会出場があり、足柄高校全体が盛り上がる機会も多かった。部活動加入率も上昇しており、この傾向は継続していきたい。

【進路グループ】

- ・昨年度から総合的な探究の時間のカリキュラムの改革を行っていて、企業へ取材を行うなどより実践的、発展的な探究活動につながり始めている。現在改革2年目であり、改善点も見えてきている。
- ・進路希望の状況は昨年度とほぼ同様だが、就職希望がやや増加している。

- ・今年度の特徴として、総合型選抜が大幅増加している。生徒が自己理解を深め、自分で進路を選ぶ傾向が強まったと感じる。基礎学力型の総合型選抜で受験する生徒もいた。
- ・多様化する年内入試への対応力向上を目指し、教員が持つ進路情報のアップデートを行い、グループから学校全体に発信していくことが課題である。

【情報管理グループ】

- ・今年度は志願者数が増えた。学校説明会の回数増や部活動紹介の充実の効果があつたのではないかと。説明会に参加した在校生たちが、お互いにプレゼンの内容など磨き合ったことで説明の質が向上し、中学生に対する学校イメージの向上に寄与した。新制服への関心も高く、志望者増加の一因となつたと考えられる。
- ・来年度はオープンスクールを8月から10月へ移すことを検討中。

【管理運営グループ】

- ・PTA 広報誌を自治会で回覧した。今後学校の取組みに対する認知度等の検証方法を検討する。
- ・1年生による地域美化清掃の範囲を拡大し、地域に貢献する生徒の様子を見せることができた。
- ・帰宅困難生徒対応訓練は雨で実施できなかつたが、市と自治会の立会いの下、市の防災備蓄品を確認することができた。

【副校長】

- ・働き方改革として業務アシスタント・サポーターを積極的に活用している。今月、インターネットバンキングを導入して業務を効率化した。
- ・不祥事防止研修は今後も継続していく。来年度以降は教職員が順番で研修発表を行う予定。

<各委員より意見・質問> (○:委員 ●:学校)

- 生徒支援における外部専門家との連携では、効率的な情報共有のためにどのようなことを行っているか。
- 児童相談所や外部の医療機関、学校警察連絡協議会など様々な連携を行っている。
- 総合型、公募型選抜の面接指導等の工夫について、本番の入試の前に大学で面接練習を行っている。入学志望者に対するナーチャリングの成果について実感などあれば知りたい。
- 新制服への関心の高さについて、大学においても実習着などへの関心が高いことから、一貫した関心事であると考えられる。
- オープンスクール参加者のうち、希望者に対し学校説明会の案内メールを送付したところ、相当数が案内メールを見て学校説明会に参加したことがわかっている。今後新入生の追跡調査・分析も行き、イベント改善に繋げたい。
- 早い時期での職業への意識づくりや、部活動の指導と教員の負担軽減の両立などについても聞きたい。大学においても学生カルテという一種のポートフォリオを作成している。
- 教職員が生徒の主体性を引き出す努力をしており、評価できる。体育祭・文化祭での生徒会活動など、生徒主体の取組の具体例はどのようなものがあるか。

- 体育祭はまだ2年目だが、生徒から出た新種目の案を採用するなど、生徒の意見を取り入れて実施した。文化祭では生徒会が校舎内や中庭の装飾を発案し、実行した。生徒の主体性が育ちつつあることから、徐々に生徒主導の生徒会活動にしていきたいと考えている。
- キャリア教育で行われた、卒業生による講話の効果について詳細を聞きたい。
- 社会接続を見据えた新企画として、社会人講話を実施した。大学等への進学にはばかり意識が向いており、その先の職業に対する意識が薄いところがあったことから、実際に様々な職業の社会人から、逆算して大学で何を学んだのか、高校で何をしておくべきかなどを聞くことで、新たな刺激を与えたいと思い企画した。新たな発見が得られたのではないかと思う。
- 部活動加入率の上昇など、充実した学校生活が伝わってくる。
- 通学時の大雄山線車内での乗車マナーが気になる生徒を見かける。保健室利用における頭痛件数が多いこととも関連し、疲れている生徒が多いのではないか。
- 健康上の問題や迷惑行為など、様々な問題点があると感じている。保健だよりなどを通じて生活習慣の改善を支援していきたい。通学時のマナーについても、地域の方と情報を共有して、生徒のために支援・指導をしていきたい。
- インクルーシブ教育実践推進校としても、高齢者など弱い立場にある人への思いやりを持ってほしい。
- 近年、中学生の進路決定の時期が遅くなっているため、2学期のイベント開催は効果的だと考える。また、他校の例だが、志望者が増えた背景に制服変更だけでなく授業改善などへの評価もあったと聞いた。足柄高校においても、50周年を契機とした授業面の改善が重要だと考えている。
- 大学進学における一般選抜の割合が低い。中学生の受験勉強への意識も低い傾向にあり、それが大学受験に向けた受験勉強に対する意識の育ちにくさに関連しているのではないか。
- 年内入試の増加は全国的な傾向だが、一般選抜に挑戦するための学習に対する継続力などが不足している生徒も増えている。一般選抜を選択した生徒の中でも、進学したい大学があって受験するといった積極的な生徒と、ほかの受験方法が不得意という理由で一般選抜を選択する消極的な生徒が半々だと感じている。一方で、探究活動を通して自己理解を深め、自己表現していく力が身につき始めたことが、総合型選抜の増加に結びついている可能性もあると考えている。
- 今年度導入された電子黒板について、効果的だった点や使いにくかった点などの実践例について教えてほしい。
- 以前からプロジェクターを使用しており、基本的な機能は活用できているが、教員間で活用の程度には差がある。生徒の Chromebook の画面共有など、協働学習への発展が来年度の課題である。
- 「この高校でよかった」と生徒に思ってもらえる学校づくりに向け、総括教諭を中心とした継続的な改善が進んでいる。県西地区の高校入試は構造的に厳しい状況にあると理解しているが、その中での今年の入試結果については学校の努力が反映され、健闘として評価している。
- 授業改善は継続すべき重要な課題であり、生徒が「わかった」「おもしろい」「そういうことか」と感じられる学びを追求してほしい。学校行事を含めた主体的な学びや活動が卒業時の満足感につながることを期待している。

その他情報共有

【副校長】

○足柄高等学校創立50周年記念事業の進捗について

- ・11月20日に足柄市文化会館で記念式典を開催。記念動画・記念誌の制作が進行中。また、美術部がシンボルマークの制作を行った。
- ・来年度は、学校職員と生徒それぞれによる50周年記念事業の実行委員会を立ち上げ、式典内容などを具体的に決めていく予定。また、50周年記念の横断幕を作成したいと考えている。
- ・さらに、文化祭で使用する中庭ステージについて、毎年業者に依頼するより購入した方が長期的には経済的と見込まれるため、初期費用を賄う手段としてクラウドファンディングの活用を検討している。

【教頭】

○令和7年度「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果分析

- ・高校生活の満足度は昨年度より上昇している。探究活動、キャリア教育、学校行事は特に高評価を得ている。思考力・判断力・表現力を高める学習活動は効果的で、自分で考えて取り組むことに対する意識が高まっている。
- ・一方で情報活用能力の育成については実感に差があり、授業における教員間の活用の差や、主体的なICT機器の活用に至っていないなどの状況が考えられる。電子黒板の活用も含め、教員間の技術の共有や研修が必要である。
- ・生徒の社会貢献意識は高いが、地域貢献活動などを「社会貢献」として十分に認識していない傾向がある。今後は、自分たちの活動や体験が社会のどの分野に関係するのかを意識できるような指導が必要である。

○ 校長挨拶

- ・本日の意見交換を通じて、学校としての基本は授業改善であることを再確認した。習熟度別授業やTT授業などの特色ある取組みを、より効果的に活用して魅力を高めていく取組みを、今後も重点課題として継続していく。
- ・また、支援が必要な生徒への対応について、今後も小田原支援学校など外部の専門機関と連携し、アセスメントやケース会議を重ねながら、より適切な支援の在り方を学校全体に浸透させていきたい。
- ・さらに、支援が必要な生徒への対応だけでなく、一般の生徒が「他者を思いやる姿勢」を持てるための取組みの不足という課題も改めて感じた。次年度はこの点についても重点的に進めていく。
- ・本日頂いた貴重なご意見は、次年度以降の取り組みにしっかり活かしていく

次回予定

- 令和8年度 第1回足柄高等学校学校運営協議会 6月予定